

長男が全国障害者スポーツ大会で3冠

【横浜市港北区】母と子は、それぞれ中学校時代、陸上部に入部した。2人とも、走るのが大好き。長距離より、短距離が得意なのも一緒に。
といふ夢は、息子だけが社会人になっても抱き続けられた。

母の石松啓子さん(55)は支部女性部長は今、応援に徹する。昨年秋、ついに目標を達成する瞬間が。長男・陽太さん(26)「男子部員」が九州で開かれた大会へ。第23回全国障害者スポーツ大会「燃ゆる感動かしま式大会」。

息子には、軽度の知的障がいがある。(1月14日付)

さうそうと走る姿から、陽太さんに障がいがあるとは分からぬ。100m走の自己ベストは11秒57。とにかく速い。

横浜市の代表として2年連続で挑んだ、全国の舞台。初出場となった前回は、「2位」が最高順位。夢の実現まで、あと一步届かなかった。

「今までこそ1位に」。親子は同じ思いで臨んだ。諦めない。今大会の目標を、出場する3種目の金メダルと定め、オリンピックの弓砲を待ち置いた。

「オニア・マークス(位置について)」「セット(用意)」……。「パン!」大会1日目。まずは200m走から。

コースはカーブ内側の第2レーン。外側の選手が前方に多く見えるため、焦りやすい。「自分の走りに集中して、楽しんでおいで」。石松さんは朗らかに送り出した。

挑戦の祈り スタートラインは そこにある



全国障害者スポーツ大会の100m走で、1着となる陽太さん(伊藤洋一撮影)

(伊藤洋一撮影)

(伊藤洋一撮影)